

# やまがた認知症カフェ通信 2018 3月号

平成30年3月15日発行 発行元／山形県認知症相談・交流拠点さくらんぼカフェ

特集 カフェで実践する新オレンジプラン⑥ 認知症の人の介護者への支援

## 認知症カフェが山形県内の全市町村に開設されました！！

「認知症カフェで実践する新オレンジプラン」として、1月号では「認知症など高齢者にやさしい地域づくり」について特集しましたが、今回は、プランの第4の柱「介護者支援」についてご紹介します。新オレンジプランでは、「認知症の人の介護者への支援」のため、認知症初期集中支援チーム等による早期の診断・対応や、家族向け認知症介護教室の普及、仕事と介護が両立できる職場環境の整備等を掲げています。県では特に、新オレンジプランにも掲げられている認知症カフェの普及に力を入れており、今年度末までに県内全市町村における認知症カフェの開設を目指してきました。



▲新オレンジプランの7つの柱

当然ながら、各市町村の人口規模や社会資源は様々で、認知症カフェの在り方も千差万別だと思います。そうした中で、各市町村・地域包括支援センターのご担当者、認知症地域支援推進員の皆さま、地域の事業所や住民の方々の方々のたくさんの御協力の下、2月末時点で県内全市町村に認知症カフェが開設されました。

誰でも気軽に参加でき、認知症の方やご家族が安心して過ごせる場所である「認知症カフェ」。最近では、その開設よりも、運営を継続していくにあたっての運営者の方の悩みが増えているように感じます。他のカフェ運営者とも積極的に情報交換をし、思いや悩みを共有することも大切なのではないのでしょうか。

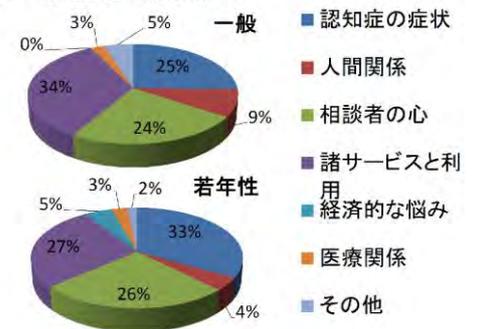
## さくらんぼカフェの今年度活動報告

今年度、さくらんぼカフェが皆さんからお受けした相談の件数や内容について、状況をご紹介します。相談件数(図1)は、平成28年度の1,136件に対し、平成29年度は2月までで818件と減少しています。その理由としては、皆さんの地域のより身近にある地域包括支援センターや認知症地域支援推進員、初期集中支援チームといった機関が、相談窓口として普及してきたことが挙げられるのではないかと思います。一方、出張交流会の参加者数は平成28年度の164人に対し、平成29年度は324人と約2倍に増加しました。要因として、開催回数が昨年度より多かったことが挙げられますが、関心を持って参加してくださる方も増えています。相談内容の内訳(図2)を見ると、一般・若年性ともに上位を占めるのは、認知症の症状、諸サービスと利用、相談者の心理面に係るものであることがわかります。また、認知症カフェについての相談を受けることもあります。平成28年度は「開設相談」が多かったのに対し、今年度は「継続していくための相談」が増えています。さくらんぼカフェでは、これからも相談者の心に寄り添った対応を心がけるとともに、県内のカフェのサポートを継続していきます。

図1 <相談件数>

年齢区分	H28年度			H29年度(4~H30.2月)			H28・H29 同月比
	電話等	面接	合計	電話等	面接	合計	
一般	358	537	895	235	352	587	-308 (0.65倍)
若年性	96	145	241	79	152	231	-10 (0.95倍)
合計	454	682	1,136	314	504	818	-318 (0.72倍)

図2 <相談内容のまとめ>



さくらんぼカフェより

さくらんぼカフェから旬の話題をお届けします！

## 認知症カフェから多くを学び今春、社会に巣立っていった大学生に期待！

さくらんぼカフェで「認知症カフェ」の経過と実態を研究し、今春、社会に巣立っていく大学生に研究成果を伺いました。「認知症の方本人をはじめとするカフェ利用者とカフェ運営者の良い関係が育まれることにより、カフェが花開く実態を学ぶことができた」と話されていました。現在も、実学として「認知症カフェ」の現地に出向き学んでいる大学生やボランティアとして参加している専門学校生が、県内には多くいることでしょう。カフェ運営者の皆さまの活動が、安心して暮らせる地域社会の実現に地道に貢献しているということに改めて感じました。学生の活躍に期待するとともに、カフェ運営者の皆さまに感謝します。

## 温かいまなざしがある町を目指して！

高島町認知症地域支援推進員（社会福祉士）  
高島町地域包括支援センター

### 後藤 さち（ごとう さち）さん ー高島町ー

高島町では、平成 27 年度から高島町地域包括支援センターに認知症地域支援推進員が配置となりました。

今年は、地域住民向けをはじめとし、小学生、高校生、企業向けの「認知症サポーター養成講座」を開催し、年代問わず幅広く、認知症への理解を深めることができたと感じております。

町民の皆さんへ「認知症サポーター養成講座」を開催する中で、学生サポーターの依頼は毎年いただいているのですが、若い世代の認知症サポーター数が伸び悩んでいることが課題でした。

そのため、今年度初の取組みとして、町内に拠点を置く企業及び団体に対し、認知症に関する理解と協力要請のため、普及啓発活動を行いました。そして「地域見守り支援システム協力機関」の登録と「認知症サポーター」が社員の 8 割以上いる企業を要件とし、『高島町認知症サポート企業』を創設しました。まだまだ登録企業は少ないですが、認知症の人が、住み慣れた地域でその人らしく暮らし続けられる社会の実現をめざし、PR していきたいと思っております。

また、認知症カフェも町内 2ヶ所で開催しており、徐々に定着してきています。平日開催と土日開催があり、それぞれ特色ある活動を展開していただいています。気軽に話せる場、人との繋がりを実感できる場になるよう、今後もひとつひとつの積み重ねを大切に町民の方と関わっていきたくと考えています。



## インフォメーション

ホットな話題をお届けします！

## 生活支援サービスの取組みが始まっています！

一人暮らしの高齢者の方や認知症の方が住み慣れた家で暮らしていくために、各地で住民参加による、多様な主体で支える仕組みづくりが始まっています。県内においても、①住民の主体性に基づき運営され、②援助が必要な方の事情に合わせた対応で、③柔軟に提供され、④支援を安定的・継続的に行う取組みとして、協議体の設置と地域支え合い推進員の配置が進められ、「見守りサービス」や「ちょっとしたお手伝い」というかたちで、介護保険などの公的サービスを補完し、地域の安心につながる支援が行われています。今回は、鶴岡市の具体的な取組み事例を紹介します。

<鶴岡市認知症高齢者等見守りサービス>

鶴岡市が実施する一定の研修を受けた見守り支援員が訪問し、認知症特有の症状に対応した見守りや話し相手などを行うことで、介護者の負担を軽減するとともに、認知症高齢者の在宅生活を支援するサービスです。

～サービス例～

- ◆ 食事や水分補給の声かけ・確認
- ◆ トイレへの誘導 ◆ 服薬の声かけ・確認
- ◆ 話し相手、趣味を一緒に行なう
- ◆ 散歩の見守り ◆ 火の元の確認、部屋の温度調整



## カフエ情報

### ～認知症カフェの活動から 地域づくりへの取り組み～ 南陽市「オレンジカフェ連絡会」

平成 25 年から南陽市小規模多機能型居宅介護連絡会で「オレンジカフェ」を立ち上げ、カフェ運営においても定期的な話し合いを重ねてきました。

より多くの方に「オレンジカフェ」をお届けしたいとの思いから、他の市内施設にも参加を呼びかけ、平成 29 年 7 月に「オレンジカフェ連絡会」を立ち上げました。

★ 自分たちでやれるカフェを

★ より多くの場所で

を目標に、2ヶ月に1回、連絡会を開催しています。新たなカフェも増え、認知症カフェを通して、認知症の方を支える地域づくりが広がっています。

発行元：山形県認知症相談・交流拠点さくらんぼカフェ 山形県認知症コールセンター(山形市 県小白川庁舎内)

電話・来所相談・カフェオープン月曜～金曜日 昼 12 時～午後 4 時

TEL 023-687-0387 FAX 023-687-0397 皆様のご意見・ご感想をお待ちしております。